

令和5事業年度 業務実績報告書の概要

I 法人の概要（P1～3）

役員、学部等構成、学生数・教職員数、基本目標、機構図等

II 全体的な状況（P4～10）

全体的な計画の進捗状況、特色ある取組等

III 項目別の状況（P11～47）

年度計画に記載された項目ごとの実施状況等 計 92 項目

- 1 大学の教育研究等の質の向上に関する計画（67 項目）
- 2 法人の経営に関する計画（15 項目）
- 3 自己点検・評価及び情報の提供に関する計画（3 項目）
- 4 その他業務運営に関する計画（7 項目）

IV その他の記載事項（P48～52）

予算、収支計画、資金計画の実績等、別表（学生の状況）

V その他法人の現況に関する事項（P53～60）

入学者、卒業・修了者、資格免許の取得、外部資金の受入状況等のデータ

公立大学法人静岡文化芸術大学

1 全体的な状況

(1) 大学の教育研究等の質の向上

① 教育・研究・学生支援

教育活動・研究

- 新カリキュラム（令和7年度開始）決定
- 新企画「ゼミ体験会 in SUAC」を開催
- オープンキャンパスを完全対面方式（人数制限なし、事前予約なし）で実施
- 地域連携演習プログラム数増加
- 教学 IR 委員会活動開始
- アセスメント・ポリシー策定

学生支援

- ティーチング・アシスタント及びチューター・アシスタントの実施要綱及びガイドライン案を策定
- LMS（学習管理システム）の活用や消費者講座による各種情報提供
- 留学生への定期的ガイダンスや生活支援
- 学内での企業説明会等に卒業生を招聘

② 地域貢献

- 地域連携センター設置
- 公開講座等の様々な催しを実施
- 東アジア文化都市 2023 の専門協働プログラムに参画し「静岡県ものづくり文化展」を開催
- 地域連携演習の取組者数増加
- 静岡県をはじめとする自治体の審議会や委員会に本学教員が参画し、政策形成や地域の人材育成に貢献
- ふじのくに地域・大学コンソーシアムゼミ学生等地域貢献推進事業に参加

③ グローバル化

- 国際交流センター設置
- 活動家や専門家を招き、多文化共生とアートを考える「多文化フォーラム」を大学で開催
- 派遣留学生、語学研修参加者等へ経済支援を実施
- 留学生と日本人学生の交流イベント開催
- アイルランガ大をはじめとする海外教育研究機関と COIL（オンライン国際協働学習）などの共同事業を実施

(2) 法人の経営

- 遠州学林構想の答申実施
- 21 件の業務を改善、成果を冊子化
- 照明設備（LED）及び個別空調の更新
- 基金の積極的な広報、オンライン決済の導入

(3) 自己点検・情報提供

- 静岡国際オペラコンクール開催
- 大学公式映像リニューアル
- 広報誌「碧い風」発行
- SNS等を活用した積極的な情報発信
- 認証評価結果に基づく改善

(4) その他業務運営

- 能登半島地震発生時における Web フォームを活用した迅速な安否確認
- ハラスメント防止研修及び情報セキュリティ研修実施
- 健康管理に関する講演会を対面開催

令和5事業年度の全体的な自己評価状況

項目	SS	S	A	B	C	計
教育・研究等	0	3(4.5%)	62(92.5%)	2(3.0%)	0	67
法人経営	0	3(20.0%)	11(73.3%)	1(6.7%)	0	15
自己点検・評価 情報の提供	0	1(33.3%)	2(66.7%)	0	0	3
その他	0	1(14.3%)	6(85.7%)	0	0	7
令和5年度 自己評価 計	0	8(8.7%)	81(88.0%)	3(3.3%)	0	92
※令和4年度 評価結果 計	0	1(1.1%)	83(90.2%)	8(8.7%)	0	92

○評価基準

SS 計画を大幅に上回って実施している

S 計画を上回って実施している

A 計画を順調に実施している

B 計画を十分には実施していない

C 業務の大幅な見直し等が必要

2 項目別の状況

(1) 大学の教育研究等の質の向上に関する取組

(業務実績報告書 P11~P31)

特筆すべき取組及び成果等

① 教育活動

- ・学科毎にアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの一貫性の検証を行い、新カリキュラム（令和7年度開始）を決定した。【No.1】
- ・夏休み期間中に開催予定であった研究室公開の開催時期を秋に変更し、対象も県外まで拡大した上で、新企画「ゼミ体験会 in SUAC」を開催した。県内外の高校生からの反響は大きく、当初の予想を上回る参加希望者があったため、定員を増やし実施した。【No.5】
- ・オープンキャンパスについて、他大学は人数制限や予約制のもと実施するケースが多かったが、4年ぶりの完全対面方式（人数制限なし、事前予約なし）にて開催し、過去2番目に多い3,756名が来場。アンケート結果では「満足」「おおよそ満足」をあわせて99.6%と非常に高い評価であった。【No.8 S】
- ・前年度より地域連携演習のプログラム数を増やすことができた。(R4:28件→R5:31件)【No.9】
- ・ふじのくに地域・大学コンソーシアム短期集中単位互換授業について、浜松市の魅力を伝える授業が開設できるかどうか調査を行い、浜松商工会議所等の協力のもと授業シラバス案を策定し、令和6年度に開講することとした。【No.11】
- ・次年度シラバスにおける各授業科目の到達目標及び成績評価の基準についての記載方法をシラバスマニュアルに明記し、学生に対する具体的な情報の明示を徹底した。【No.18】
- ・教学IR委員会（「部会」から規程により即した組織名「委員会」に変更）を定期的に開催し、個人情報の取扱いに関する規程の整備、担当教職員や部署の調整、アセスメント・ポリシー案の作成を行った。アセスメント案には対象となるデータの種類、保管場所などの調査結果を記載した。【No.25】

② 学生支援

- ・各学科において、チューター制、学年担任制の運用をより充実させ、学生の履修相談、学習支援、ゼミ・領域選択、進路相談などを適切に行った。【No.30】
- ・他大学の制度を調査したうえで、ティーチング・アシスタント及びスチューデント・アシスタントの実施要綱及びガイドライン案を策定した。【No.31】
- ・留学生ガイダンスを定期的実施し、外国人留学生の修学状況を把握した。【No.35】
- ・保護者説明会、業界研究セミナー、学内企業説明会等に卒業生を講師として積極的に招き、在学生の興味を喚起すると同時に交流の場を設けた。【No.42】

③ 研究

- ・教員特別研究の研究成果に対する評価について、研究目的と成果の整合性等の観点ごとに、評価者（学長、副学長等）が意見を付し、研究代表者にフィードバックした。【No.49】
- ・研究公募情報を学内で定期的に報告することにより、教員の外部資金獲得に対する意識を高めて、申請を促進した結果、47,772千円の外部資金獲得につながった。【No.48】
- ・教職員向けにコンプライアンス研修を実施し、研究費の不正使用事例について、具体的な事例を挙げて説明し、不正使用防止の啓発を行った。【No.52】

④ 地域貢献

- ・公開講座等の様々な催しを実施し、合計参加者は、目標値 3,713 名に対して 4,066 名であった。代表的な実績として、東アジア文化都市 2023 の専門協働プログラムとして実施した「静岡県ものづくり文化展」が挙げられる。本事業は、両学部の学生が協働し、地元企業の魅力をパネルや映像で伝える新たな産学連携の取組であり、723 名が来場した。また、図録を作成し、大学の広報活動にも活用している。【No.54 S】
- ・地域連携演習における学生の実践的な学習と地域貢献の様子を、活動プログラム毎に写真と説明文を掲載したポスターにまとめ、オープンキャンパスや新入生説明会の際に学内に掲示し、高校生や新入生を中心に広く紹介した。結果として、本学の強みである地域連携演習等の取組者数が、前年度から更に増加した。(280 名→310 名) 【No.55 S】
- ・県内外自治体、各種団体の審議会、委員会等に本学教員が参画し、政策形成や地域の人材育成に貢献した。(延べ 455 件) 【No.58】
- ・ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施するゼミ学生等地域貢献推進事業について 5 件応募し、4 件採択された。【No.61】

⑤ グローバル化

- ・活動家や専門家を招き、多文化共生とアートを考える「多文化フォーラム」を大学で開催した。【No.63】
- ・海外の教育研究機関等との共同事業として、アイルランガ大学との COIL (オンライン国際協働学習)、ワルシャワ美術アカデミーとの合同作品展及び COIL (オンライン国際協働学習)、イズミル経済大学との産学共同国際デザインワークショップ、JTB 台湾オンラインインターンシップの 4 件を実施した。【No.67】

大学の教育研究等の質の向上に関する取組 項目別の評価状況

項目	SS	S	A	B	C	計
教育活動 学生支援	0	1	40	2	0	43
研究	0	0	9	0	0	9
地域貢献	0	2	8	0	0	10
グローバル化	0	0	5	0	0	5
令和 5 年度 自己評価 計	0	3(4.5%)	62(92.5%)	2(3.0%)	0	67
※令和 4 年度 評価結果 計	0	1(1.5%)	60(89.5%)	6(9.0%)	0	67

(2) 法人の経営に関する取組

(業務実績報告書 P32~P39)

特筆すべき取組及び成果等

① 業務運営の改善

- ・法人の代表者を議長とする役員会を13回、経営審議会を4回開催し、法人経営及び大学運営に係る重要事項を審議、決定した。また、学長を議長とする教育研究審議会を10回開催し、教育研究に係る重要事項を審議し、業務運営の改善に取り組んだ。【No.68】
- ・遠州学林構想について答申を行った。また、本構想の基盤となる国際交流センター、地域連携センターの設置について検討を進めた結果、令和6年度からの設置を決定した。【No.70 S】
- ・育児のための入試業務免除等、制度を周知し利用を促進した。育児休業以外の育児に関する諸制度の利用者は12人であった。(目標値：第3期累計30人以上)【No.73】
- ・事務局各室で業務改善を図った結果21件の業務が改善された。また、成果等を冊子にまとめた。【No.75 S】
- ・令和6年度当初予算編成において、既存業務をゼロベースで見直し、約3,000万円の削減効果があった。【No.75 S】

② 財務内容の改善

- ・静岡文化芸術大学基金について、同窓会、後援会や地元企業に対して積極的な広報を行い、約210万円の寄付を受けた。また、基金について、新たにオンライン決済を導入した。【No.79 S】
- ・本学の財政状況をふまえ、重点事項や削減目標を定めた「予算編成基本方針」を策定し、予算編成を行った。【No.80】

③ 施設・設備の整備・活用等

- ・非常用発電機オーバーホール、照明設備(LED)更新、個別空調更新を実施した。【No.81】

法人の経営に関する取組 項目別の評価状況

項目	SS	S	A	B	C	計
業務運営	0	2	7	1	0	10
財務内容	0	1	2	0	0	3
施設・設備	0	0	2	0	0	2
令和5年度 自己評価 計	0	3(20.0%)	11(73.3%)	1(6.7%)	0	15
※令和4年度 評価結果 計	0	0	14(93.3)	1(6.7%)	0	15

(3) 自己点検・評価及び情報の提供に関する取組

(業務実績報告書 P40~P43)

特筆すべき取組及び成果等

① 評価の活用

- ・ 認証評価機関による評価結果で指摘を受けた項目について、改善計画を作成し、実施した。【No.83】

② 情報公開等の充実

- ・ SNSを活用して、本学のイベント情報、学生の活動等を発信した。
(フォロワー数 R4 : 2,036 名→R5 : 2,413 名) 【No.84】
- ・ 大学公式映像をリニューアルし、大学概要紹介映像 (10 分版) と大学イメージ映像 (3 分版) を制作し、大学 Web サイト及び YouTube チャンネルにて公開した。【No.85 S】
- ・ 本学も主催者となっている静岡国際オペラコンクールを 6 年ぶりに開催し、成功させた。告知のため、TV 番組の放映、交通広告 (浜松、静岡、名古屋、豊橋) 等を行い、前回は超える本選入場者数につながった。加えて、コンクール期間中にライブ配信を実施し、国内外に広く発信した。前回よりも応募者が増え、県民として初の本選出場者があった。さらに、本学の学生 14 名がボランティアとしてコンクール運営補助を行った。【No.85 S】

自己点検・評価及び情報の提供に関する取組 項目別の評価状況

項目	SS	S	A	B	C	計
評価の活用	0	0	1	0	0	1
情報公開等	0	1	1	0	0	2
令和 5 年度 自己評価 計	0	1 (33.3%)	2 (66.7%)	0	0	3
※令和 4 年度 評価結果 計	0	0	3 (100%)	0	0	3

(4) その他の業務運営に関する取組

(業務実績報告書 P44~P47)

特筆すべき取組及び成果等

① 安全管理

- ・教職員向けの健康管理に関する講演会を4年ぶりに対面で開催し、健康管理意識の醸成に努めた。【No.86】
- ・令和6年能登半島地震発生時には、安否確認フォームを用い、学生、教職員の安否をただちに確認した。迅速かつ的確な対応を行った代表的な県内大学として、NHKからの取材を受け、ニュース番組で取り上げられた。【No.88 S】
- ・ロールプレイング型の情報セキュリティ研修を5月と10月の2回にわたり実施し、教職員のセキュリティ意識の向上を図った。【No.90】

② 社会的責任

- ・全教職員を対象にハラスメント防止研修を行った。【No.91】
- ・動画教材を活用し、学生のハラスメント被害防止意識の向上を図った。【No.91】
- ・公開講座を実施するほか、浜松市役所において、本学のフェアトレードの取組を紹介するなど、学内外に広くフェアトレードについて発信をした。【No.56】【No.92】
- ・環境負荷の低減を図るため、施設整備等事業費補助金を活用し、個別空調機の更新や照明設備（LED）の更新を行った。【No.92】

その他業務運営に関する取組 項目別の評価状況

項目	SS	S	A	B	C	計
安全管理	0	1	4	0	0	5
社会的責任	0	0	2	0	0	2
令和5年度 自己評価 計	0	1 (14.3%)	6 (85.7%)	0	0	7
※令和4年度 評価結果 計	0	0	6 (85.7%)	1 (14.3%)	0	7